

報	6
総 会	1 7 8

第一部報告

1. 第 24 期の組織・運営

(1) 第 24 期第一部の運営体制

部長：佐藤 岩夫 副部長：藤原 聖子 幹事：橋本 伸也・町村 敬志

※ 役員会

※ 拡大役員会（役員に加え各分野別委員会委員長）

(2) 10 の分野別委員会のもと 77 の分科会が活動。

分野別委員会	委員長	分科会数（2019 年 4 月 1 日現在。※1）
言語・文学委員会	松浦 純	4
哲学委員会	戸田山 和久	5
心理学・教育学委員会	亀田 達也	10（1）
社会学委員会	遠藤 薫	12
史学委員会	久留島 典子	10
地域研究委員会	宮崎 恒二	11
法学委員会	松本 恒雄	8
政治学委員会	古城 佳子	5
経済学委員会	北村 行伸	7
経営学委員会	徳賀 芳弘	5（1）

※1 （）内は他部が主たる担当委員会である合同分科会（内数）。

(3) 第一部が直接統括する分科会

- 第一部国際協力分科会（委員長：町村 敬志）
- 第一部科学と社会のあり方を再構築する分科会（委員長：杉田 敦）
- 第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会（委員長：橋本 伸也）
- 第一部総合ジェンダー分科会（委員長：永瀬 伸子）
- このほか、人文・社会科学基礎データ分科会（仮称）の設置を準備中（4 月幹事会で承認予定）

2. 第 24 期の活動方針

(1) 人文・社会科学の振興

前期 3 年目に第一部が発出した提言「学術の総合的發展をめざして一人文・社会科学からの提言一」（2017 年 6 月 1 日）は、今日の人文・社会科学をめぐる状況と課題を整理した上で、学術の総合的發展のために、①教育の質向上と若者の未来を見据えた高等教育政

策の改善、②研究の質向上の視点からの評価指標の再構築、③大学予算と研究資金のあり方の見直し、④若手研究者と女性研究者の支援の本格化、⑤総合的学術政策の構築の5点を提言した。今期第一部では、部会、役員会・拡大役員会、第一部附置人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会等を中心に、科学者委員会およびその下に置かれた各分科会とも連携しつつ、「提言」の内容をさらに具体化し、成果を上げることがめざす。

（２） 社会への発信（責任ある意思の表出）

日本学術会議は、日本の科学者コミュニティの代表機関として、日本の社会や学術がかかえる重要課題について、意思を形成し社会に発信する重要な役割を期待されている。第一部は、これまで同様、この期待に積極的に応えることをめざす。

また、各期の期末に多数の提言等が集中する問題や、査読のあり方、同時並行的に進行する分野別・機能別・課題別各委員会の審議の連絡・調整の体制等、日本学術会議の意思を形成・表出プロセス自体に反省的な検討を加え、責任ある意思の表出の一層の実現への貢献もめざす。

（３） その他

人文・社会科学分野における日本の学術の国際発信の強化、人文・社会科学をはじめとする学術における男女共同参画の健全な展開の実現等にも積極的に取り組む（第一部国際協力分科会、第一部総合ジェンダー分科会）。

3. 2018 年 10 月総会後の活動

（１） 第一部全体の活動

2018 年 10 月の総会時に部会を開催。役員会を随時開催、拡大役員会を 2 回開催。

第一部が直接統括する分科会は、以下の活動を行った。

- 第一部国際協力分科会：①2018 年 7 月の ISSC（国際社会科学評議会）および ICSU（国際科学会議）の統合後の新組織 ISC（国際学術会議）への対応、②AASSREC（アジア社会科学研究協議会連盟）および IFSSO（国際社会科学団体連盟）への対応、③その他人文・社会科学分野の国際的な協力を進める活動。
- 第一部科学と社会のあり方を再構築する分科会：①緊急時における情報発信のための態勢づくりの検討（幹事会附置の危機対応科学情報発信準備委員会との連携）、②従来の科学情報発信の経験についてのケース・スタディ的な検証の開始。
- 第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会：①「研究評価」のありかたをめぐる現状把握および理論的検討、②地域社会における人文・社会科学の役割についての検討。後者に関連して、とくに「地方」における大学のあり方に関連する立法や政策上の展開への対応を検討し、2019 年 2 月 3 日に公開シンポジウム「地域と世界に生きる大学：地域社会における知の創造と発展のために」を開催（科学者委員会学術と教育分科会ほかとの共催）。
- 第一部総合ジェンダー分科会：人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences – GEAHSS）と連携して、第 1 回「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」を実施（2018 年 6 月～11 月）。その結果を踏まえて、2019 年 2 月 9 日に公開シンポジウム「なぜできない？ジェンダー平等：人文社会科学系学協会男女共同参画の実態と課題」を開催（GEAHSS との共催）。

(2) 予算問題への第一部の対応

2018年度に顕在化した予算逼迫問題は、第一部の委員会・分科会活動にも多大の影響を及ぼしたが、委員会・分科会の理解の下、財務委員会の方針に従い対応。

2019年度も厳しい予算状況が予想されるため、2回にわたる拡大役員会の審議を経て、3月末に、部長名で『2019年度第一部予算執行方針』を第一部会員および分科会委員長に配信。年度当初に各委員会・分科会の予算枠を設定することにより、予算の効果的使用の余地を広げるとともに、年間を通じて見通しがつきやすい予算管理の実現をめざす。

(3) 前回総会以後の第一部関係の意思の表出

- 『社会的つながりが弱い人への支援のあり方について：社会福祉学の視点から』（社会学委員会社会福祉学分科会、2018年9月13日）[前回総会資料作成後に発出されたため今回掲載]

(4) 前回総会以後の第一部関係のシンポジウムの開催（27件）

「認知症医療への心理学的貢献」（心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会、2018年10月7日・2018年12月9日）、「心理学で冤罪を防ぐ：司法的判断における認知バイアスの影響」（心理学・教育学委員会法と心理学分科会、同社会のための心理学分科会、2018年10月13日・2018年11月10日）、「脳科学と人工知能（AI）：その期待と課題」（心理学・教育委員会脳と意識分科会・臨床医学委員会脳とこころ分科会・基礎医学委員会神経科学分科会・総合工学・機械工学委員会計算科学シミュレーションと工学設計分科会、2018年10月13日）、「国際秩序思想と憲法」（政治学委員会政治思想・政治史分科会、2018年10月14日）、「『歴史総合』をめぐる（3）」（史学委員会中高大歴史教育に関する分科会、2018年10月27日）、「アジア選挙研究カンファレンス」（政治学委員会政治過程分科会、2018年10月27日）、「フューチャー・デザインー持続可能な未来に向けて」（経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、2018年11月7日）、「人づくりと古典－人生を豊かに彩るために－」（哲学委員会古典精神と未来社会分科会、2018年11月10日）、「〈考える力〉とは何か？－思考の教育における哲学系諸学の役割」（哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会、2018年11月10日）、「震災・復興資料の収集・アーカイブズ化の現状と今後の課題」（社会学委員会東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会、2018年11月10日）、「科学技術の進展と人間のアイデンティティー哲学・倫理・思想・宗教研究からの問いかけ」（哲学委員会、2018年11月23日）、「公認心理師と認知行動療法」（心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会、2018年11月23日）、「議員内閣制はいま動いている」（政治学委員会政治過程分科会、2018年12月8日）、「学術フォーラム「研究者の研究業績はどのように評価されるべきか－経営学における若手研究者の育成と関連して－」（企画：経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会・経営学における若手研究者の育成に関する分科会、2018年12月9日）、「地球システムと私たちの生活－人新世時代の想像力」（地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面（HD）分科会、2018年12月16日）、「グローバルな福祉社会の構想力－東アジアの介護・ジェンダー・移民」（経済学委員会ワーク・ライフ・バランス研究分科会、2018年12月16日）、「LGBT/SOGI 施策－国・自治体は何をすべきか」（法学委員会社会と教育における LGBTI の権利保障分科会・社会学委員会ジェンダー政策分科会、2018年12月19日）、「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」（社会学委員会社会福祉学分科会、2019年1月14日）、「アジアがひらく日本」（社会学委員会、2019年1月26日）、「社会的投資はデモクラシーを救えるか」（政治学委員会比較政治分科会、2019年1月30日）、「地域と世界に生きる大学－地域社会における知の創造と発展の

ためにー」(第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会・日本学術会議科学者委員会学術と教育分科会、2019年2月3日)、「なぜできない?ジェンダー平等 人文社会科学系学会 男女共同参画の実態と課題」(第一部総合ジェンダー分科会、2019年2月9日)、「物質と文化ー文化財の保存と活用を巡る諸状況」(哲学委員会芸術と文化環境分科会、2019年3月5日)、「「地理総合」で何が変わるか」(地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会、2019年3月21日)、「学術から考える英語教育問題ーCEFR、入試改革、高大接続ー」(言語・文学委員会・同文化の邂逅と言語分科会、2019年3月23日)、「欧州一般データ保護規則(GDPR)に対する日本の学術界の対応」(法学委員会、同IT社会と法分科会、2019年3月27日)、「男女がともにつくる民主政治を展望するー政治分野における男女共同参画推進法の意義」(法学委員会ジェンダー法分科会、2019年4月6日)

(5) 第一部ニューズレターの発行(第20期以降、概ね年間3号程度を発行)

第24期第4号(2019年12月)を刊行。

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/1bu/pdf/letter24-1.pdf>

報	7
総 会	1 7 8

第二部報告

①構成と運営

第二部が関わる学術領域である生命科学は生命を理解する知を体系化し、その基盤を構築すると共に、人類の福祉・社会の進歩に貢献することを目的とする学問である。第二部では部長、副部長、幹事（2名）で役員会を構成しており、生命科学関連の重要課題に対して方針の大枠を議論し、更に会員（現会員数：68名、4月1日現在）が参加する部会において種々の課題について活発な討議を行い、部としての方針を決定している。役員は日本学術会議幹事会のメンバーとして日本学術会議全体が抱える課題の議論に関与することで、日本学術会議の意志決定に参画している。第二部所属の分野別委員会は基礎生物学、統合生物学、農学、食料科学、基礎医学、臨床医学、健康・生活科学、歯学、薬学の9分野、及び環境学は学際領域として他部と共同で設置している。分野別委員会は委員長、副委員長、幹事（2名）を中心にそれぞれの分野における課題を議論しているが、第二部に関連する諸課題に対して的確かつ迅速に対応するために分科会を設置している。部の活動の源泉はこの分科会の活動であり、現在、第二部附置あるいは分野別委員会の下に95分科会（及び分科会の下に1小委員会）が組織されており、これらの分科会には各課題の専門家として会員、連携会員、特任連携会員が委員として参画し、討議が行われている。第24期に入り、基礎医学委員会のもとに、医学研究者育成検討分科会、基礎医学委員会のもとに、アディクション分科会と臨床ゲノム医学分科会、両者の合同分科会として法医学分科会、臨床医学委員会と健康・生活科学委員会合同分科会として、少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会が新たに設立され、現在重要性が増しつつある諸課題を審議する体制がさらに整ったものと期待される。

②第24期の活動方針

第二部が扱う分野は、健康・衣食住・環境など、人との関連が深いものであるから科学者と市民の双方向性対話をより一層推進する。また、これらの諸科学は、基礎生物学の着実な発展があつてはじめて可能であり、最先端の生物学の必要性和成果の発信を続ける。あらゆる科学には、その成果がSDGsに貢献する光の部分と、それを損ねかねない影の部分があり、光と影の両面について議論する。たとえば、近年開発された最先端のゲノム改変技術であるゲノム編集法は、それをヒト生殖細胞系列に利用していわゆる designed baby を生み出すなどの誤った利用が世界的に懸念されてきたが、2018年11月にゲノム編集を施された双生児出産の報告がなされ、そのような懸念が現実のものとなった。この危機的状況に対して、第二部は、執行部・第一部・第三部と協力しながら迅速に対応し緊急の幹事会声明を発出した。

人類と地球環境をとりまく諸問題は、限られた学術分野のみでは対応ができなくなりつつある。一例として、我が国を筆頭に未曾有の高齢社会を迎えつつある諸国が解決すべき認知症患者の急増をあげることができる。これは、医学的な予防・治療はもちろん、社会での受け入れなど第一部より第三部にいたる問題を内包するが、第二部はこのような部をまたがる問題解決のための日本学術会議としての審議に積極的に貢献する。

生命科学分野は女性研究者の数が多く、男女共同参画を積極的に行ってきた歴史がある。今期に新設した第二部が直接統括する分科会：生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会を中心に、第二部として男女共同参画の推進により一層貢献する。

第二部が関係する生命科学領域には多数の学協会が存在する。今期において、これらの学協会と第二部のあいだで積極的に情報共有する機会を構築する。

③第24期の活動

(i)部会の開催

第二部会は平成29年10月3日、平成30年4月3日～4日、8月5日～6日、10月3日～4日の4回開催した。

(ii)生命科学分野の提言・報告

委員会・分科会は提言等を表出するだけでなく、その内容を行政組織等へ周知させ、実現を目指した活動を行うこととしている。委員会・分科会は期の終了間際に提言等を発出するのではなく、周知活動を行うことができるよう、時間に余裕をもって審議し提言等を表出する。平成30年10月からの約半年間において、第二部分野別委員会・分科会より提言・報告として（提言）「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」（基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会、平成30年11月7日発出）、（提言）「生きる力の更なる充実を目指した家庭科教育への提案—より効果的な家庭科教育の実現に向けて—」（健康・生活科学委員会家政学分科会、平成30年12月14日発出）、（報告）「農業経済学の学部教育のあり方」（農学委員会農業経済学分科会、平成31年3月13日発出）、（提言）「衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化」（農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同応用昆虫学分科会、平成31年4月9日発出）の4件を発出した。

また、前述したゲノム編集技術を施したヒト受精卵に由来する産児を得たという報告について、第二部は執行部・他の部と協力しながら、そのような倫理に反する科学技術の応用を非難する緊急の幹事会声明（日・英文）を機動的に発出することに貢献した。そのような声明発出の効果として、日本学術会議は、近い将来に開催されるゲノム編集に関する国際会議に代表を派遣することの招待を受けた。

(iii)生命科学分野のシンポジウム

平成30年10月から平成31年3月までの期間において、以下にあげる21件のシンポジウム等が第二部委員会・分科会等により開催された。

- ・公開シンポジウム「医療界における男女共同参画の推進と課題～日本学術会議幹事会声明をふまえて～」平成30年10月26日(月)
- ・公開シンポジウム「生活によりそう家政学」平成30年10月27日(火)
- ・公開シンポジウム「2050年水産資源を日本の食卓から考える」平成30年11月10日(土)
- ・公開シンポジウム「ビックデータの創薬と医薬品適正使用への活用に向けた提言」平成30年11月20日(火)
- ・公開シンポジウム「創薬の加速化を担う構造生物学の最前線」平成30年11月21日(水)
- ・公開シンポジウム「植物保護科学のSDGsへの貢献」平成30年12月1日(土)
- ・公開シンポジウム「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」平成30年12月13日(木)
- ・公開シンポジウム「先端的フェノタイピング技術の農作物生産への実装」平成30年12月18日(火)
- ・公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2018」平成30年12月21日(金)
- ・公開シンポジウム「アフリカ豚コレラ：家畜に壊滅的被害をもたらす、食料生産への脅威となる感染症～」平成30年12月28日(金)
- ・公開シンポジウム「我が国におけるスポーツの文化的アイデンティティ再考」平成31年1月12日

(土)

- ・公開シンポジウム「生体イメージングから創薬へ」平成31年1月18日(金)
- ・公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」平成31年2月1日(金)
- ・公開シンポジウム「第89回日本学術会議-日本衛生学会共催シンポジウム」平成31年2月1日(金)
- ・公開シンポジウム「野生動物と共に生きる未来-持続可能な野生動物管理システムの構築をめざして」平成31年2月9日(土)
- ・公開シンポジウム「超高齢社会における心疾患の診療提供体制一かかりつけ医での診療・多職種介入：心臓リハビリテーションの定着に向けて一」平成31年3月21日(木)
- ・公開シンポジウム「農芸化学から持続可能な世界への変革を目指して - 農芸化学研究が国連の持続可能な開発目標（SDGs）に果たす役割 - 」平成31年3月24日(日)
- ・公開シンポジウム「放牧・酪農による中山間地活性化の可能性を探る」平成31年3月25日(月)
- ・公開シンポジウム「農芸化学「化学と生物」シンポジウム：腸内フローラ研究が拓く新たな健康科学と産業」平成31年3月27日(水)
- ・公開シンポジウム「スマート畜産：IoT・人口知能およびロボット技術の利活用」平成31年3月28日(木)
- ・公開シンポジウム「わが国の公衆衛生の重要課題を考える」平成31年3月29日(金)

報	8
総 会	178

第 三 部 報 告

第三部には、以下の 11 分野別委員会のもとに約 90 分科会及び 3 合同分科会が設置されている。

役員

部長	大野 英男
副部長	徳田 英幸
幹事	高橋 桂子
幹事	米田 雅子

第三部が直接統括する分野別委員会合同分科会

○「科学技術の光と影を生活者との対話から明らかにする」分科会

委員長	徳田 英幸
副委員長	土井 美和子

○理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長	加藤 昌子
副委員長	森下 信

○理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会

委員長	山口 周
副委員長	菱田 公一

分野別委員会

	委員長	副委員長
環境学委員会	高村 ゆかり	浅見 真理
数理化学委員会	坪井 俊	小澤 徹
物理学委員会	梶田 隆章	松尾 由賀利
地球惑星科学委員会	藤井 良一	田近 英一
情報学委員会	徳田 英幸	東野 輝夫
化学委員会	加藤 昌子	茶谷 直人
総合工学委員会	吉村 忍	大倉 典子
機械工学委員会	藤井 孝藏	厨川 常元
電気電子工学委員会	大西 公平	波多野 睦子
土木工学・建築学委員会	米田 雅子	前川 宏一
材料工学委員会	山口 周	片岡 一則

平成 30 年 10 月 5 日～平成 31 年 4 月 23 日の半年間における、第三部および関連の分野別委員会の活動を以下に報告する。この間、第三部拡大役員会を 6 回（10. 25、11. 29、12. 19、1. 31、2. 28、3. 28）開催した。

1. 提言等の発出(H31.3.10 現在)

以下の 1 提言及び 1 報告を発出した。

○提言「ハッブルの法則の改名を推奨する IAU 決議への対応」（H30. 12. 26）

○報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 化学分野」
(H31. 2. 21)

2. シンポジウムの開催

第三部および関連の分野別委員会の活動として 34 個のシンポジウムを開催した。

○科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会、

日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会：

「災害からあなたを守る科学技術との対話」（H30. 10. 13）【東京ビッグサイト会議室】

○地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会：

「グローバル時代のデータ利用と可視化」（H30. 10. 15）【日本学術会議講堂】

○総合工学委員会 原子力安全に関する分科会：

「原子力総合シンポジウム」（H30. 10. 22）【日本学術会議講堂】

○材料工学委員会 バイオマテリアル分科会：

「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル 2018」（H30. 11. 13）
【神戸国際会議場】

○地球惑星科学委員会 IUGS 分科会：

「地質災害リスク軽減研究の最先端:地質科学は科学と社会にどう貢献できるのか？」
(H30. 11. 15) 【東北大学災害科学国際研究所 1 F セミナー室】

○情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会：

「科学データの保存・利用態勢の強化と国際展開」（H30. 11. 19）
【日本学術会議 2F 大会議室】

○環境学委員会 環境科学分科会、

化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会：

「次世代エネルギー社会の超低炭素化に向けた課題とチャレンジー温室効果ガス
80%削減のフィージビリティとリアリティについて考えるー(2)」

(H30. 11. 27) 【日本学術会議講堂】

○物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会、化学委員会 IUPAC 分科会：

「新しい国際単位系 (SI) 重さ、電気、温度、そして時間の計測と私たちの暮らし」

(H30. 12. 2) 【日本学術会議講堂】

○総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会：

「第8回計算力学シンポジウム」(H30. 12. 12) 【日本学術会議講堂】

○機械工学委員会 ロボット学分科会：

「ロボットのシステムインテグレーション科学を目指して」(H30. 12. 13)

【大阪工業大学梅田キャンパス セミナ 204 室】

○総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会：

「科学的知見の創出に資する可視化：日本発の可視化研究ブレイクスルーに向けて」

(H30. 12. 15) 【日本学術会議講堂】

○物理学委員会：

「基礎科学研究の意義と社会（物理分野から）」(H30. 12. 17) 【日本学術会議講堂】

○地球惑星科学委員会 SCOR 分科会：

「海洋観測における研究船の役割：成果と展望」(H30. 12. 25) 【日本学術会議講堂】

○情報学委員会：

「第12回情報学シンポジウム」(H31. 1. 10) 【日本学術会議講堂】

○土木工学・建築学委員会：

「免震・制振データ改ざんの背景と信頼回復への道筋」(H31. 1. 15)

【日本学術会議講堂】

○電気電子工学委員会：

「電気エネルギーの未来を考えるーブラックアウトの現象、影響と提言」(H31. 1. 17)

【日本学術会議講堂】

○総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会：

「第4回理論応用力学シンポジウム」(H31.1.23)【日本学術会議講堂】

○総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会：

「ハイパワーレーザーによる高エネルギー密度科学技術の展望」(H31.1.23～H31.1.24)

【Japan Embassy, Washington D.C. USA】

○情報学委員会 ITの生む諸課題検討分科会：

「AIによる法学へのアプローチ」(H31.1.24)【TKP ガーデンシティ PREMIUM 神保町】

○総合工学委員会・機械工学委員会合同

計算科学シミュレーションと工学設計分科会：

「冷たいメカニズムから心優しいメカトロロジーへ～超高齢化社会とスマート・テクノロジー～」(H31.1.25)【日本学術会議講堂】

○健康・生活科学委員会、環境学委員会合同 環境リスク分科会：

「第89回日本学術会議-日本衛生学会共催シンポジウム」(H31.2.3)

【名古屋大学東山キャンパス】

○総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会：

「AI時代のもの・コトづくりに向けた新たな計算科学活用における課題と期待」

(H31.2.14)【日本学術会議講堂】

○物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会：

「素粒子物理・原子核物理分野の「大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン」に関するシンポジウム」(H31.2.19)【日本学術会議講堂】

○物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会：

「物性物理学・一般物理学分野の展開と大型研究計画」(H31.2.22)

【日本学術会議講堂】

○日本学術会議物理学委員会・化学委員会合同国際周期表年記念事業検討分科会、
化学委員会IUPAC分科会：

「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」(H31.2.23)

【日本学術会議講堂】

○総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会：

「再生可能エネルギー次段階の導入に向けて」(H31. 3. 8)【日本学術会議】

○総合工学委員会未来社会と応用物理分科会：

「国公私大の地域を超えた役割と連携：未来社会と応用物理」(H31. 3. 9)

【東京工業大学 大岡山キャンパス】

○電気電子工学委員会通信・電子システム分科会：

「That's Interesting：ICT 研究はどこに向かうのか」(H31. 3. 11)

【日本学術会議講堂】

○電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会：

「21 世紀社会における日本のエレクトロニクスを支える博士人材育成」

(H31. 3. 21)【早稲田大学 西早稲田キャンパス 57 号館 201 号室】

○心理学・教育学委員会・情報学委員会合同教育データ利活用分科会：

「ラーニングアナリティクスによるエビデンスに基づく教育に関する国際シンポジウム」(H31. 3. 22)

【京都大学吉田キャンパス 国際科学イノベーション棟 5 階シンポジウムホール】

○地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会、

日本学術会議土木工学・建築学委員会 I R D R 分科会：

「繰り返される災害－少子高齢化の進む地域で生き抜くということ－」

(H31. 4. 5)【日本学術会議講堂】

○化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会：

「サステナブルな社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和」(H31. 4. 12)【日本学術会議講堂】

○機械工学委員会 機械工学の将来展望分科会：

「機械工学の将来展望：イノベーション創出に向けた次の一手」(H31. 4. 16)

【日本学術会議講堂】

○土木工学・建築学委員会：

「第 6 5 回構造工学シンポジウム」(H31. 4. 20～H31. 4. 21)

【関東学院大学金沢八景キャンパス 3 号館】

3. 今後の主な予定

平成 31 年度の第三部夏季部会を 8 月 1 日～2 日に大阪府豊中市にて開催する。

文責 第三部部长
大野 英男